

病児・病後児保育の 必要性と利用者の声

ダイバーシティコーディネーター
黒川 佳子





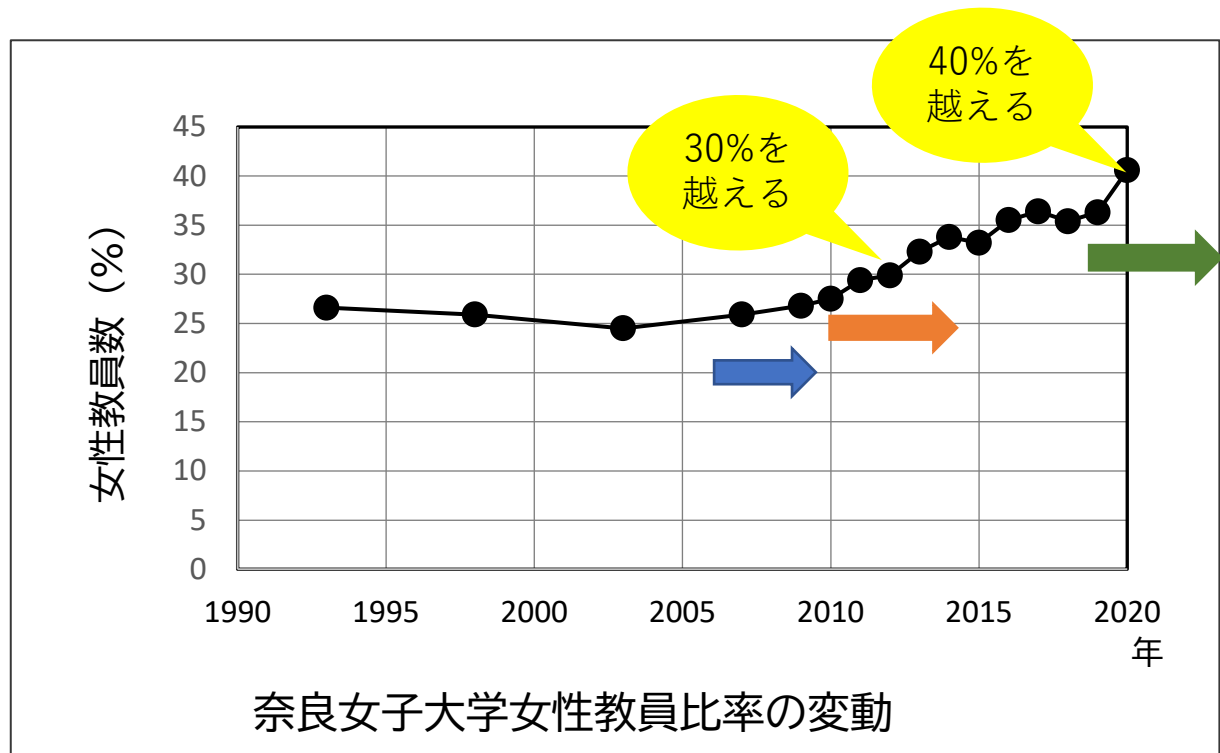
奈良女子大学における女性教員比率の変動

補助事業



大学の取組

女性教員
比率UP↑



2006

女性研究者支援
モデル育成事業

2010

女性研究者養成システム
改革加速事業


2019

ダイバーシティ研究環境実現
イニシアティブ（牽引型）

若手女性教員が増加



子育て支援の更なる充実が望まれる



切実な悩み

子どもが病気の時

休めない 休みにくい

- 講義や実験・実習は専門性が高く、代理をお願いするのが難しい
- 実験・実習の材料の供給のタイミングの問題で、
延期することができない

など

子どもが体調不良で困っている時の支援もしたいが...

病児・病後児保育の
実現は長年の夢！！

ダイバーシティ研究環境実現
イニシアティブ（牽引型）に採択



ついに病児・病後児保育の実現に向けて始動！

どのような支援が求められているか？
どのような支援が可能か？



病児・病後児保育に関する
アンケート調査（2019）を実施



病児・病後児保育に関するアンケート調査（2019）結果より

奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・武庫川女子大学

研究・仕事・学業と育児の両立に関して悩むこと TOP 3

子どもの病気で欠勤（欠席）・遅刻・早退をすることがあり、周囲に迷惑をかけてしまう

夜遅くまで残れない
夕刻以降の会議に出席しにくい

子どもと過ごす時間が少ない

勤務日（出席日）にお子さんがケガや病気で、 保育施設・小学校を欠席することになった場合の対応 TOP4

自分が仕事を休んで看護する

祖父母に預けて看護してもらう

就労している配偶者が休みを取って看護する

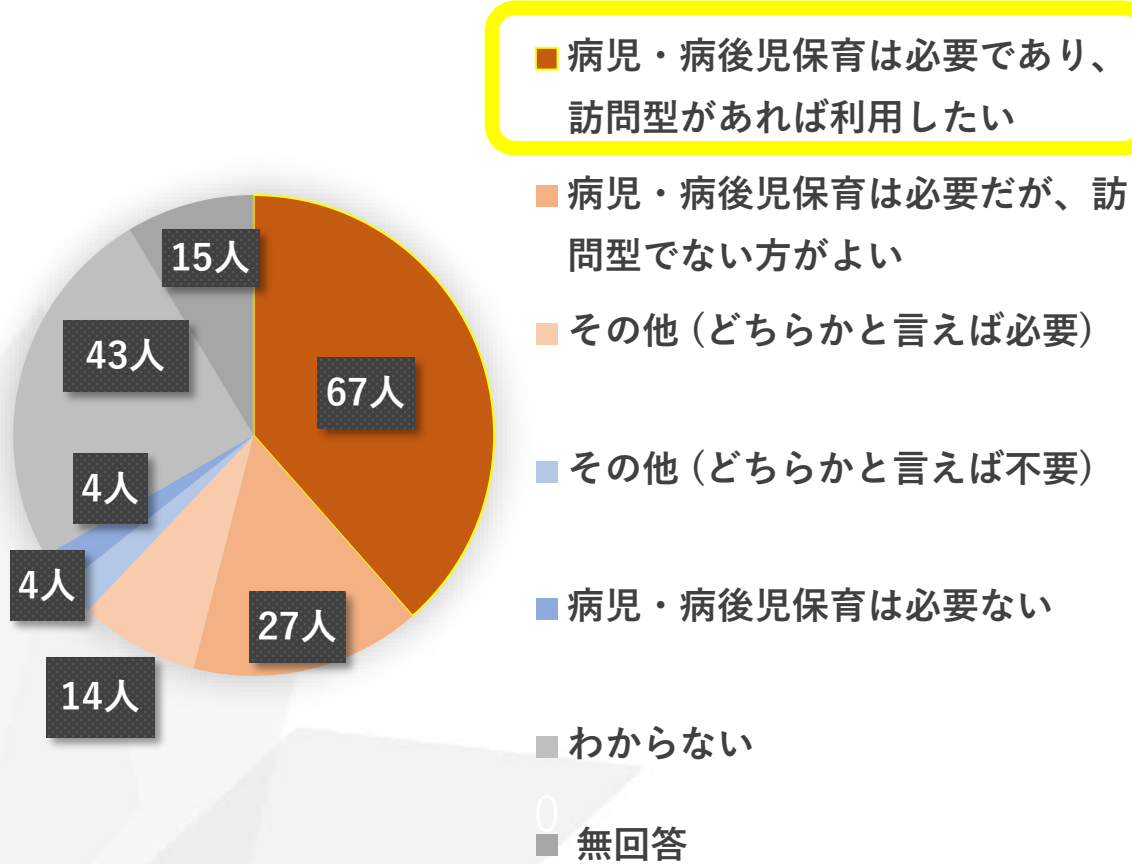
就労していない配偶者が看護する



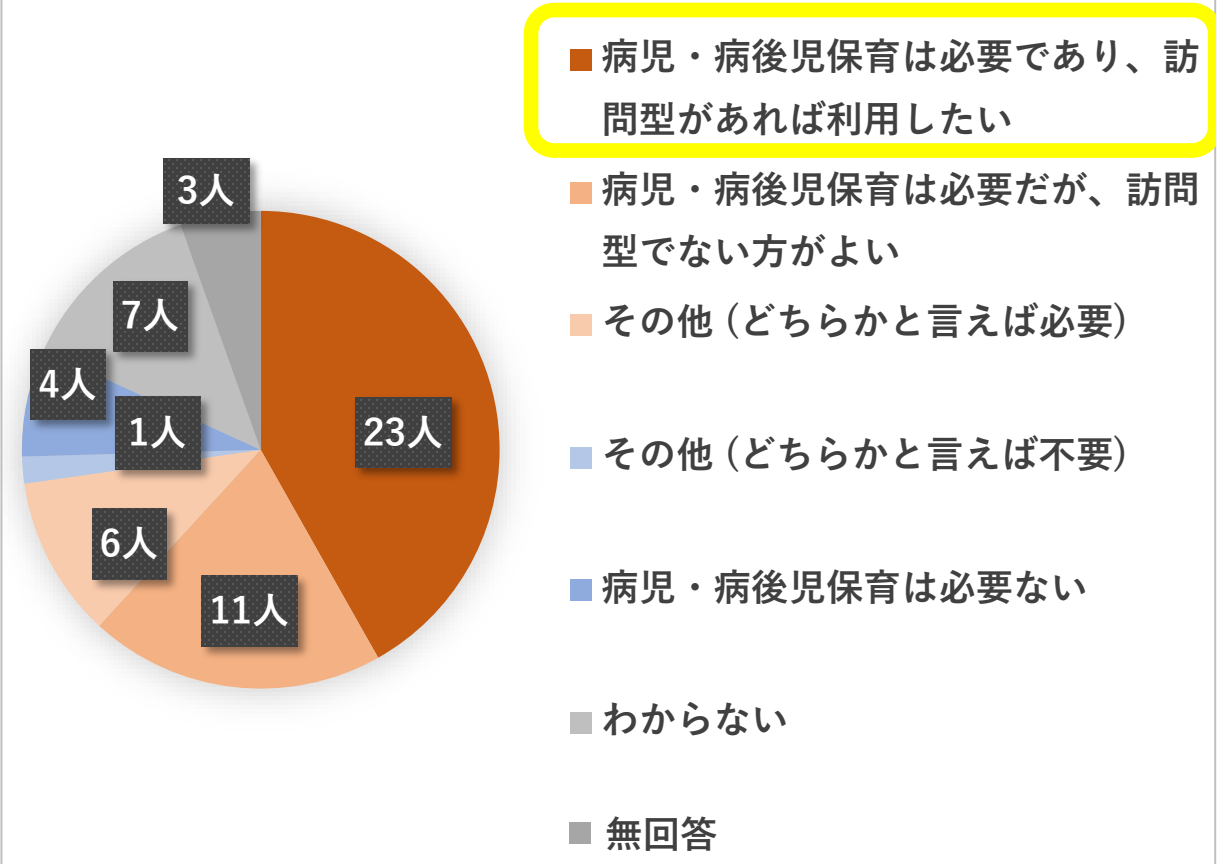
病児・病後児保育システムの構築が重要

「訪問型」病児・病後児保育システムについて（奈良女子大学）

回答者全体(174名)



12歳以下のお子さまがいる方（55名）



「訪問型」病児・病後児保育システムのニーズは高い

ならっこネット利用者の聞き取り調査

R2.6.12~7.9 奈良女子大学教員（常勤・非常勤）、学生 計7名に対して実施

お子さんが病気の時の対応

- ・ 病児保育施設を利用しているが、空きがない場合は夫婦どちらかが仕事を調整。
- ・ 利用者が仕事を休んで看病。
- ・ 義母に看てもらおう。
- ・ 近くの病児保育施設を利用しているが、事前に医療機関を受診し医師連絡票をもらう必要があり、午前中の授業や学生指導などがあると間に合わないので、朝の授業は入れないようにしている。
- ・ 保育園に行き始めたばかりのころは、次々に病気をもらってくるので、月の半分ほど病児保育施設を利用していた。
- ・ 保育園から呼び出しが来たら、利用者が急いで迎えに行き、病院に連れていく。

困っていること

- ・ 有給休暇は毎年使い切る。
- ・ 病児保育室は満室で空きがないことも多い。
- ・ 施設型ではほかの病気をもらうかもしれない心配がある。

「訪問型」病児・病後児保育について

- どのような時に利用したいか
 - ・ 普段の預かりと同じように**夕方の数時間**を支援してもらえると助かる。
 - ・ **病児保育室が満室の時**に利用したい。
 - ・ 子どもが病気の時にテレワークが可能であれば、**必要な時間だけ**支援をおねがいしたい。
 - ・ 感染性の病気から**ある程度元気になって治療証明が出るまでの間**、預かってもらいたい。
 - ・ 急性期は過ぎたが**もう少し休ませたいという時**に預かってもらえると助かる。

「訪問型」病児・病後児保育について

- 安心・安全について
 - ・ 慣れているサポーターさんをお願いできると安心。
 - ・ 他の病気をもらうこともなく安心。
 - ・ 安全に関する知識をしっかり持っている方をお願いしたい。
 - ・ 子どもの病気についての知識、経験のある人、判断ができる人であれば、特に資格は望まない。
 - ・ 健康時よりも支援報告書に細かくメモを残す、定期的に体調をチェックするなどしたほうがお互いに良い。
- その他
 - ・ 自宅での保育は子どもの負担とストレスの軽減になる。
 - ・ 病児についての講習をきちんと受けた方をお願いしたい。

利用者の声 (VTR)

奈良女子大学

研究院自然科学系物理学領域 助教

下村 真弥 先生

どんな時にならってネットを利用していますか



求められる病児・病後児保育

子どもが慣れた環境での、よく知ったサポーターさんによる支援
個々のニーズにこたえるきめ細やかな支援
安心・安全な支援

課題

- 安心・安全と考えられる条件が必要
- 留守宅でサポートしてもらうことへの抵抗感
- 病気の子どもを預けることへの不安



取組

- 正しい知識での確かな判断ができるサポーターの養成
- サポーターとの信頼関係
- サポート体制と安心・安全な連携の構築